

## ケリングが取り組むスタートアップも出展

## 「チェンジ ナウ」で見つけた注目企業4選

環境問題をはじめとしたサステナビリティに取り組むときに、新しいアイデアやイノベーションは欠かせない。有力企業の多くはそうした課題解決に取り組むスタートアップ企業に投資している。1月30日～2月1日にパリのグラン・パレで開かれたサステナビリティサミット「チェンジ ナウ」は、ファッション、循環型経済、エネルギー、海と水、エコパッケージ、生物多様性と農業、地球のためのAI(人工知能)などサステナビリティを軸にした企業約230社が出展し、投資家や取り組み先を探すためにブースを構えた。

「チェンジ ナウ」は2年ぶり2回目の開催で、1日のみの開催だった初回に比べて規模が拡大した。一般入場用のチケットが販売され、連日会場前には多くの人が列を作り、その関心の高さがうかがえた。今回、同サミットのメインパートナーを務めたのはサステナビリティ活動で高評価を得ているケリンググループだ。そのほか電気通信事業者のオランジュ、化粧品クラランスグループ、欧州のメガバンクBNPパリバ、アディダス、マイクロソフトなどもパートナーとして名を連ねた。

見どころの一つは有識者によるパネルディスカッション。グラン・パレに3つの会

場を設け、リセ・キング国連グローバル・コンパクト最高経営責任者(CEO)兼エグゼクティブ・ディレクターやサステナビリティ政策をリードするプリユス・ポワルソン＝フランス環境連帯移行大臣付副大臣、循環型経済を推進するエレ・マッカーサー財団のアンドリュー・モーレーCEOといった有識者から、パートナー企業や出展したスタートアップ企業の代表などが登壇して活動を報告したり、サステナビリティの重要性を訴えた。ブースの出展企業には、ケリングやクラランスと取り組む企業の姿もある。新しいアイデアや技術を提案するユニークな企業を紹介する。

PHOTO: IKU KAGEYAMA



グラン・パレで行われた「チェンジ ナウ」のサステナブルファッションエリアの様子



フェリックス・ウィンクラー 共同創業者兼最高顧客責任者



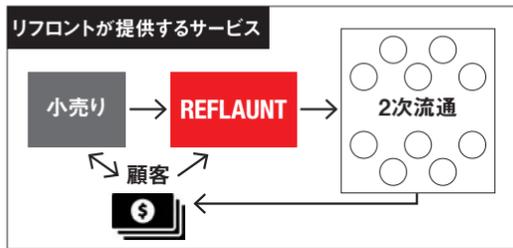
## ラグジュアリーブランドから2次流通を請け負う注目企業

リフロントは、ブランドやショップからリセールを請け負うサービスを提供する。同社と契約したブランドは自社ブランド商品や売りたい顧客にリフロントを紹介。リフロントは顧客から預かった商品を2次流通に乗せて売り、顧客は現金かその1.2倍程度の商品券を受け取れるというのだ。

「さまざまな企業が自社ブランドのリセールに興味を持っていると知り、2次流通市場をコントロールできれば面白いと考えた。もともと僕は2次流通の市場に明るく、そうしたプラットフォームを把握していたから。直接ブランドと取引することで、本物である証明も容易になる」と共同創業者のフェリックス・ウィンクラーは語る。「集荷の方法は3つある。①顧客の家まで集荷、②ショップでの引き取り、③商品をポストしてもらおう、のいずれかだ。」

リフロントの拠点はシンガポールだ。「シンガポールの2次流通のプラットフォーム「スタイル・トリビュート」とのジョイントベンチャーで18年6月に立ち上げた。すでにシンガポールの有力セレクトショップ、クラブ21と取り組んでいる。」

この春、人気ラグジュアリーブランドと組んでヨーロッパ市場に進出する。



オーガスティン・フロマゲオット 総務部長 (左) と エロディ・ブランシュタイン CEO



## 金採掘で破壊されたアマゾンの熱帯雨林の回復

ソリカズは2018年からケリングとパートナーシップを結び、アマゾンの金採掘跡地の森林再生プロジェクトに取り組む。エロディ・ブランシュタインCEOは「フランスの法律では、採掘後の森の30%を再生すればいいことになっているが、残りの70%の土地は、何を植えても育たない「死んだ土地」になっている」と指摘する。この問題意識からアマゾンに赴いた。そこで出会ったのが仏フォレストアのオーガスティン・フロマゲオット総務部長だ。フロマゲオットは地理学者で10年にわたり、熱帯のギニアでバクテリアと熱帯地域における

土地の再生について研究をしていた。「森林を再生することが僕の夢だった。だからエロディとアマゾンで出会ったときお互いの目的が同じだから一緒に取り組もうと意気投合した。今はペルーの金採掘跡の土地をバクテリアを用いて再生しながらカカオを中心に60種類の木を植えている」。これまでに250ヘクタールを再生した。



金採掘で剥げあがったアマゾンの森



## ファッションショーの廃材を再利用 芸術家や学生に提供

高まるサステナビリティへの関心から1回きりのために巨大なセットを作り、遠方からゲストを呼んで行うファッションショーに疑問の声が聞かれるようになった。ブランド側もショーの廃棄物に対して問題意識を持ち始めるようになった結果、ビジネスが成長しているのがラ レザーブ デアード。同社はショーの廃棄物を回収し、少なくとも90%以上の廃棄物を仕分けして芸術家や学生に提供する。会員は廃棄物を自由に使うことができ、年会費は学生が8ユーロ(約960円)、芸術家が13ユーロ(約1560円)、14人以下の小規模企業は70ユーロ(約8400円)といった具合で良心的な設定だ。

現在、フルタイムの社員は15人だが、ファッションウィークなどの繁忙期は60人体制で臨む。2018年に回収した廃棄物は200トンで、19年はその3倍の600トン(そのうち300トンがファッションウィークに出る廃棄物)に上った。

廃棄物の回収方法と費用はさまざまだが、「捨てるのに比べて10~15%割高」とのこと。小規模のショーは約300~400ユーロ(約3万6000~4万8000円)、巨大なセットのショーは約55万ユーロ(約6600万円)。現在、ケリングやその他のラグジュアリーブランドなどとの取り引きがある。



1500㎡のアトリエには素材別にリサイクルされた廃棄物が並ぶ



サンドリン・アンドリーニ ディレクター



セドリック・ヴァンホック 創設者



## 服のリペアやリサイクルを簡単にする「溶ける糸」

服のリペアをするときに、あるいは不要になった服をマテリアルリサイクル(原料にまで戻さず素材をリサイクルする方法)やケミカルリサイクル(繊維を分解して原料にまで戻して再利用する方法)するときに、ファスナーなどの付属品や異なる素材を縫い合わせた服が簡単に切り離せたら――リサイクルに関しては仕組みがまだ整っていないが、整ったときに有効な糸を提供するのがリソーテクスだ。熱で「溶ける糸」を開発した。現在2パターンを用意する。1つめは色のバリエーションは少ないが165℃で溶解する糸だ。スポーツウエアはレザーグッズなどに適している。2つ目は、195℃で溶解するひまし油から作ったバイオナイロンの糸。デニムやワークウエア、一般的なアパレル向きで、糸は好きな色に染めることができる。価格はいずれも一般的な糸と差異はないという。



展示された糸。同社はH&amp;Mファウンデーションが主催するコンペ「グローバル・チェンジ・アワード」で受賞している